

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371401353		
法人名	有限会社アートプロジェクト		
事業所名	グループホーム名古屋尾崎山の家		
所在地	名古屋市緑区尾崎山1丁目1101		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	平成22年6月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方々に理解され挨拶をしたり諸々の行事にも参加をしたりされたりうまくいっている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市千種区内山1-11-16		
訪問調査日	平成22年1月12日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム設立から5年目を迎え、職員の現場定着状況も落ち着いてきて、利用者に寄り添い希望を汲み取る余裕ができてきた。また利用者もこのところ落ち着いた状態が続いているとの職員の声である。加えて職員の一部が得意とするクイズや歌と一緒に楽しむ利用者の表情がとてもしなやかになったと話す管理者の顔もほころびホームの雰囲気も伺える。管理者は利用者家族および地域とのよりよい関係作りを目指し交流を図っている。なお、地域、家族の参加が得られる運営推進会議を活かした取り組みが今後の課題のひとつであり管理者と職員の努力の成果に期待は大きい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所や玄関などに掲示している。	いくつかのグループホームを持つ母体の理念が玄関に掲示されている。職員はその理念を共有しながらホームの理念「穏やかに、にこやかに、暖かく接することができるように努めます」を心においてサービスを向上させようと頑張っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内清掃、廃品回収、自治会加入、行事(盆踊りなど)に参加し、感謝の気持ちを伝え理解を得るよう行動している。	自治会に加入し町内清掃や廃品回収に参加している。また夏祭りを楽しみ、近所の保育園の運動会には入居者が招待されるだけでなく競技にも参加したりで地域にとけこむ努力を怠らない。	今年はまず1月半ばに自治会の「伊勢神宮参拝」に管理者が参加することからスタート。地域との交流をより深めるために進んで参加を申し出たとのこと。今後も地道な努力を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話での相談があるので、その時あるいは後日を決めて対応する事はある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、介護者教室を毎回テーマを設けている。サービス向上のための交流の機会も持っている。	会議を利用して福祉用具、アロマセラピーの効用や認知症の勉強会なども行っている。民生委員3人を含め毎回15人程度の参加があるものの、会議で得た情報や意見を十分活かすまでには至っていない。	利用者の家族からは「会議に参加してホームのことがよくわかった」と喜ばれたとのこと。管理者は、会議の意味を再認識し今後のサービス向上につなげたいとの気持ちが強い。大いに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の入居者が6名おり、相談や情報を得るなど積極的に連絡をとりあっている。	介護保険課に運営推進会議の報告を届けたり、相談また情報を得るため常に連携をとるよう心がけている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケア会議で介護方法を検討するなどしている。行事中や入浴に手間取る時は見守りがじゅうぶんできない為やむをえず玄関の施錠をしている。	身体拘束については折に触れ職員同士で話し合っサービスに活かしている。勤務体制の都合上どうしても職員が手薄になる時間帯にのみ、事故防止の観点から玄関の施錠を余儀なくされている。	
7		○虐待の防止の徹底			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本部からの研修で勉強会を重ね、日々虐待につながる言動がないか絶えず確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用されている入居者がいて要望も折々あるので、職員が支援員と連絡をとるなか理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に至るまで納得頂けるまで時間をかけて説明している。疑問点は本部等に確認して正確な応答を心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や入電時に意見や要望を伺い早く対応している。運営推進会議の交流の機会で見えが出る場合もしっかり対応したい。	家族と顔を合わせるいろいろな機会を利用して意見や要望を聞くように心がけるが率直な声をあまりかえってこないのが現状である。	信頼関係は十分に築かれており家族の不安などもないかと思われる。具体的な問題を投げかけてみたり、問いかけの方法などで意見や要望が出しやすい工夫をして、更なるサービスの向上につながることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回もしくは随時、必要に応じて職員会議を開き、運営に関する事を伝達し、職員の意見や提案を出してもらう。	いろいろな意見が個人的に管理者に出されることが多い。職員会議でそれらも含めて取りまとめ、決定していくことが多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいをもって働いていけるよう、環境を整える努力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実務研修等、外部の研修がいつでも受けられる様勤務体制を整え、施設内でもトレーニングできる様配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内のグループホームの分科会やグループホーム協議会等に参加して研修や交流をはかっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から入居後落ち着くまで本人と対話の機会をしっかりとち、小さな事も大切にしてい気持ちや意向を反映したケアにつなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	納得がしっかりいかれるまで対話の機会をもち、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係機関と連絡をとり情報を集め、本人や家族の不安や困っている事、要望も含め早急にアセスメントし対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いの経験や知識、思いを尊重し、かつ自由に意見が言い合え話しあえる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族それぞれの立場の思いを受け止め、本人と家族、家族同士の良好な関係を維持できるようサポートしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月1回は家族への連絡や来訪依頼を行っている。友人知人の来訪や、反対に外出も支援している。	自分からはほとんど要望を言わない人もいるが時間をかけて聴く努力をしている。入居前から出かけていたパチンコ、カラオケや食事などに職員が付き添うこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が日々細かい配慮を行い対話と交流の支援を行うなか、利用者同士のかかわりの機会ももっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了されても、本人や家族の相談を受けた時は支援を行っている。情報はまとめてしっかり管理している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの作成や更新時は当然であるが、日々職員が把握に努めている。困難な場合は、本人が言葉で言えるとしたらどうか、など少し前の状態なども思いめぐらせて汲み取っている。	職員は入居する時に本人や家族の思いや意向の把握に努めている。また、日常生活の中で本人と会話しながら、上手に聞いている。言葉の少ない人ほど気をつかい話しかけている。他に、表情や行動を見て察するようになっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	他機関からの情報収集や本人と家族との入居時面談のみでなく、日々の生活の中で本人と家族の言葉や言動から情報を集め共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々心身状態は変化するので、小さな事でも申し送りや記録を行い、全職員が把握して業務にかかれるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の望む生活や家族の思いを大切にし、その人らしい生活の実現やサポートについてユニット別に極力職員全員から意見を聴取し、ケース会議で検討し計画作成している。	入居時は1ヶ月で見直しをしている。他は状態変化がなければ3ヶ月の見直しとなっている。見直しには、かかりつけ医や本人・家族、職員の意見が反映されており、それをもとに新しい介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、介護詳細記録、申し送りノートに記入し情報の共有に努めている。心身状態の変化については、細かく観察やバイタル測定を行い、受診時細かく情報提供し相談している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限りお答えしている。ボランティアを積極的に受けたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お話会や歌や踊りのボランティア、消防署との防災訓練など地域資源の力を積極的に取り入れ、安全や楽しい豊かな生活を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医(内科・歯科)は月2回の往診の他、必要時には通院の付き添い、送迎をしている。病状の見通しや必要なケアやサービスなどについての相談も行なっている。	かかりつけ医が協力医となっているが、かかりつけ医の対応が困難な専門的な治療が必要な場合は専門医を紹介している。通院する場合は職員が日頃の様子を記載して家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回出勤の看護師へ相談。必要時や緊急受診時は受診の支援や本人・家族・医師への説明等、看護師が随時行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人・家族に了解を得た上で病院側と連絡をとり、治療や今後の相談などに努めている。退院時は病院の指示に基いたサービス提供がはかれるよう準備する。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	緊急時の対応及び重度化、看取りに関する指針を本部で策定し、家族に説明、疑問などあれば話し合い、同意を頂いた。その後もおりおり機会あれば家族に説明している。	利用者が重度化してきた時には、本人・家族や医師や看護師、職員との話し合いを行い、家族に対してはホームで出来る範囲の支援をする方針を伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルは作成している。入居者個人個人で考えられるリスクを想定し、応急処置についても資料でおりおり勉強しているが、今後訓練も行なっていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	連絡体制は全職員周知している。防災訓練を1年に2回行っているが、日頃から災害を想定し非難方法について話題にし確認を行なっている。地域の自治会にも参加し協力体制が得られるよう配慮している。	年2回夜間想定した防災訓練をしている。先回は2階からマットレスを使い降りる練習をしている。運営推進会議でも地域の人の参加を呼びかける予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	朝の申し送りや職員会議などつうじて、気づきや振り返り、確認を行い職員の共通認識にしている。	利用者の認知症の進み具合を把握して排泄などその人に合うケアサービスを心がけ、何が一番良い方法なのか、日々考えており利用者の人格を尊重した支援を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が遠慮や気兼ねをせず思いを伝える事ができる信頼関係の構築に努め、本人が自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どう過ごしたいかという希望を積極的に聞き出したり感じ取り、職員の業務を調整しながら実現の段取りを行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の難しい方には訪問理美容を利用し満足して頂いている。買い物に行きたい方には個別に対応し、身だしなみの購入等楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人個人の関心やできる事を見極めた上で参加できる部分はして頂いている。	調理は職員が概ね行い、テーブル拭きや食器拭きなど利用者で出来る人は協力してもらっている。食事は職員が利用者の食べこぼしなどさり気なくサポートして見守りしている。誕生日には利用者の好きな物が食卓に並んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分があまりとれない人には声かけや介助を行なう。食べやすい形態、えんげしやすい形態を配慮し、時にはかかりつけ医に相談し栄養補助飲料や点滴の処置など受ける。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きの声かけを行なう。自分でじゅうぶんできない人は介助している。訪問歯科の治療後を受けた人は、その後磨けているかの定期検診もありその都度確認してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立支援の観点をもって本人に適した排泄方法を検討し支援している。トイレ誘導も、本人の排尿間隔を念頭におき、失敗が極力少なくなるようにしている。	排泄チェック表があり、職員は利用者の個々のパターンを把握して、トイレ誘導の支援をしている。また、入居時や退院後の場合2週間程かけてトイレでの排泄が自立出来るように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容や水分、運動など日々留意しているが、習慣的に強い便秘の方には前もって便秘薬を処方して頂き、様子をみながら投与している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日全員が入浴できるように配慮している。希望があれば希望する時間に入浴できるようにしている。	入浴は14時頃から入っている。利用者の希望に添って入浴しているが、冬は1日置き希望が多い。入浴拒否の人には清拭を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	布団干しや掛けものの調整、温度湿度の調整など環境を整えるよう日々心がけている。昼夜逆転の方には生活リズムの修正を少しずつはかっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	心身状態が変化あった場合は薬の副作用という点からも検討。医師に状態を報告する。薬剤情報表、薬剤管理表、お薬手帳を活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や好きな事を楽しめるよう支援する。入浴のない日には室内レクや外気浴、外出などおりおり楽しみ事の機会を心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の要望にそって買い物や散歩など個別に付き添い支援している。本人に普段行けない所への外出希望があれば家族に伝えられているが、同時に心身状態も伝えて無理のない行動のアドバイスもしている。	散歩は歩行訓練を兼ねてよく出かけている。お正月には数名の人が自宅に帰り家族と過ごしている。他に家族と一緒に外食をしたり買い物に出かけたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理や所持に不安のある方は権利擁護の制度も利用しながら、本人が納得いくよう職員がかかわり支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常的に支援している。プレゼントのお礼なども自筆で書けるよう支援し、家族と本人の良好な関係維持に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた作品を季節に先駆け飾りつけ、入居者の趣味のものなど心やすらぐ空間づくりを大事にしている。清潔さ、風とうし、光、温度など留意し日々調整している。	居間は窓は大きく開放感がある。節分の鬼や雪だるまが飾ってあり季節を感じることができる。ソファやテーブルがあり利用者がのんびりテレビをみたり利用者同士会話を楽しんでいる。室温も適切で居心地のよい場所である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルとソファスペースを分け、玄関前にはベンチを置くなど自由に寛げるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛着のあるものを手元に置き精神的にも安定できるように図っている。本人の好みや習慣も配慮しながら、さしざわりのない範囲で清掃やかたづけを行なっている。	居室にはタンス、位牌、テレビ、写真、本人が作ったぬいぐるみなど趣味の作品が置いてあり、居心地の良い部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が混乱しないようわかりやすい表示や、浴室など日により使わない空間は施錠するなど安全に配慮している。視力の弱い方もおり、他の入居者にもその理解を得るよう声をかけ、皆で気をつける事ができるようにしている。		

外部評価軽減要件確認票

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2） 自治会に加入し町内清掃や廃品回収にも参加しながら地域に根ざすための努力を続けている。また夏祭りなど地域の行事にも積極的に参加し交流を図ることで地域住民のホームへの理解を深めたいとしている。近くの保育園からは運動会に声がかかり参加した利用者が楽しめるよう競技参加への配慮もある。管理者と職員の地道な努力が少しずつ実を結び始めた。	評価 ○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3） 2ヶ月に一度定期的に関き毎回介護に関するテーマを決めて介護教室を開催し、学ぶ機会を作っている。会議の内容は管理者および職員みなどで共有しているがそれを活かした取組みにまでは至っていないのが現状である。毎回、民生委員、利用者とその家族、ケアマネージャー、ホーム職員に加え随時ボランティアや他施設管理者などの参加も得られることから、管理者は今後この会議を活かした取組みに力を入れていきたいとしている。	評価 ×
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4） 利用者の中には生活保護を受けている人も含まれるため、区の担当者に相談したり必要な情報を得るため連携を密にしている。また市町村が主催する研修には積極的に参加している。	評価 ○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6） ホームでの生活の様子を家族や外部関係者に知ってもらうためにホーム便りを年2回とニュースレターを毎月発行している。家族の訪問の際に意見や要望を聴き反映させるよう努めているが家族との信頼関係は築けているものの実際には意見や要望は少ない。意見や要望を引き出すための工夫が課題のひとつとなっている。	評価 ○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	×
○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。		×
総合評価		×

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

今後に向けて課題はまだ多いがアンケートからは利用者の家族の信頼度、満足度は良好といえる。それは開設から5年目を迎えるまでの管理者及び職員の頑張りの結果である。運営推進会議を今以上に活かす工夫と取組みが今後の課題のひとつであり地域に根ざしたホーム作りの大事なポイントでもある。いろいろな事情から自治会に加入していないグループホームも多い中、住民として地域としっかり関わり地域の人達に感謝しながら生活していきたいと願う職員全員が気持ちよく関わって行くホームである

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認

服ノ、概員工員ノス時ツが血ガ、ハヤクシク、カキ、サシ、ケル。

を行う。